

「あたりまえ」にありがとう

新学期が始まって間もない頃、小学生の娘が泣いて家に帰ってきました。どうしたのかと理由を聞くと、「給食の時間にお茶をこぼして、国語の教科書がぐちゃぐちゃに濡れてしまった。」と答えました。「見してみ。」と教科書を見ると、ビニールの袋に入った教科書は、乾いていたもののごわごわに波打っていました。「4月にもらったばかりなのに、もう使えへんなあ。」という、娘が「先生が、4月に渡す教科書はタダやけど、2回目からはどうなんやろうって考えてはった。」と言いました。

そう言えば、私が子どもの頃から、教科書にお金を払ったことはありませんでした。教科書はタダであたりまえだと思っていた私でしたが、気になったので、インターネットで調べることにしました。「教科書 無料」で検索してみると、文部科学省のホームページが出てきました。読んでみると、教科書の無償給与は憲法第26条がもとになっていることが分かりました。更にいろいろな資料を調べていくうちに、無償化に至るまでには、様々な歴史があり、そこに関わった人たちの願いや思いが込められているということが分かりました。

私は、そんな願いのこもった教科書をもう一度手に取ってページをめくって行きました。すると最後のページに『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。』と書いてありました。私が子どもの頃には書いてあったかなあと思いながら、そのことを娘に話すと、「そう言えば、先生そんな話してはったわ。」と答えました。

「それやったら、余計に大事にせなあかんやんなあ。」と、娘と一緒にぐちゃぐちゃになった教科書のしわを一枚一枚てのひらでのばして行きました。

「わたし、この教科書を大事に使うわ。」と娘がつぶやいたので、「そうか、そうやな。みんなの願いのこもった教科書やもんな。」と一緒にしわをのばしながら、会話を続けました。

「教科書がタダでもらえるのってあたりまえじゃないんやなあ。」と言う娘に対して、「そうやな。何でも今こうなってることがあたりまえやと思てたらあかんのやな。」と言いました。そして、他にも同じようなことがないか、二人で考えてみました。

「お腹すいたら、何か食べられるのはあたりまえ?」「好きな洋服を着られるのはあたりまえ?」「行きたいところへ行けるのはあたりまえ?」「布団の中で眠れるのはあたりまえ?」「今、生きてるのってあたりまえ?」・・・考えていくうちに「あたりまえって何か分からんようになってきたなあ。」と二人で頭を抱えてしまいました。

最後のページを丁寧にのばした後、娘がかしこまった顔をして、「『あたりまえ』に、ありがとうやな。」と言いました。私は、娘の頭を撫でながら、

「この教科書、ぐちゃぐちゃになったけど、おかげで大事な勉強できたな。」と言って、二人で教科書をランドセルに戻しました。

私たちが、「あたりまえ」と思っていることが「あたりまえじゃない」こともある。目の前にある「あたりまえ」に感謝すると同時に、今の社会に目を向け、考えることの大切さを教えてくれた出来事でした。